

開催地名：愛媛県今治市	
開催日時	令和2年10月20日（火） 14：00 ～ 15：30
開催場所	今治市立立花小学校 体育館
語り部	菅野 祥一郎 （岩手県陸前高田市）
参加者	第5学年児童及び教員90名
開催経緯	当校では、総合的な学習の時間で、「防災について考えよう」というテーマで授業を行っているが、子どもたちは実際に災害を体験したこともなく、身近に被害を受けた人もいないため、自分事として捉えにくく、具体的な情報が身につかない状況である。今回、東日本大震災の語り部の講演を聞くことで、災害のイメージを具体的に認識し、備えの重要性についても自覚してほしい。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>私が住む陸前高田市は、岩手県の南端に位置し、隣はすぐ宮城県である。東日本大震災では津波の被害を受け、多くの命が失われた。リアス海岸は狭い海岸のため、波の高さが増し被害を大きくした。大きな津波は毎年来るものではない。忘れたころに突然やってくる。自分だけは大丈夫、ここまではこないだろう等々、安全を過信しては行けない。自然を侮ってはいけない。</p> <p>（2）絶対に子どもたちを助けるという信念</p> <p>地震が発生したときに所用で校外にいた私は、急いで学校に戻ろうとしたが、途中の橋が通行止めになり、想定外の時間がかかってしまった。戻った時、子どもたちや近隣の住民は校庭に整列していたが、既に津波は川をさかのぼり始めており、時間の猶予はなかった。私は、丸太の階段を使い、隣の山の上にある青いフェンスまで6年生から順番に登るように指示した。低学年から登れば渋滞してしまい、時間がかかってしまうからである。</p> <p>つい先ほどまで校門付近にいた数十人の人たちは私たちのそばから消えてしまった。校舎に逃げた人たちは、屋上の貯水槽の上に登れた一人の方を除き、流されてしまった。子どもたちが助かった理由は、住民の生死を分けたものは何なのか。それは、「誰よりも早く逃げることを決断したこと」に尽きると思う。</p> <p>（3）避難所では</p> <p>私たちの学校の子どもたちは全員が助かった。そして、何日かたって迎えに来る家族の数も増えた。いや、正確には迎えに来て帰る家がないのだから無事を確かめに来た、と言った方がいいのかもしれない。食べ物は小さなおにぎり1個。近くの冷凍工場から流れ出た冷凍秋刀魚を拾い上げ、焼いて食べた。不平不満を言うものは一人もいなかった。</p>

	<p>ある子には最後まで誰も迎えに来ることはなかった。その子がどんな思いで家族が来てくれるのを待っていたか、みなさん想像がつくだろうか。本当に、本当につらかったと思う。</p> <p>また、私が直接見たわけではないが、がれきの中からようやく息子さんの遺体を発見した家族が、その横に中身を全部抜かれていた財布が落ちているのを見てどう思われたか。こんなにひどいことをする人間がいるなんて、信じられないし、本当に悲しいことである。</p> <p>(4) 皆さんへのお願い</p> <p>皆さんに、以前教師だったという立場からお願いしたいことがある。それは「命を大事にしてください」ということである。まずは自分の命を、そして隣の人の命を。必死で逃げても命が尽きてしまった彼女。彼女だけでなく、たくさんの若い命が一瞬にして奪われた。どんなに怖かっただろう。想像しても想像しても、その恐ろしさ、苦しさは私にはわからない。こんな恐ろしい災害が起こるなんて夢にも思わなかったから。</p> <p>しかし、人生には思いもよらないことが起こる。だから、今、この時を大切に、生きていることの幸せをかみしめてほしいと思う。そして、誰の命も大切に作る人になってもらいたい。陸前高田の人は、大切な人をたくさん亡くした。でも、厳しい環境の中で、精一杯明るく前を向いて歩む人がたくさんいる。皆さんは自分の家がある。家族がいる。自分の学校がある。友達がいる。当たり前のことかもしれないが、素晴らしいことである。だからこそ、家族や友達を大事にして、先生方のお話をしっかり聞いて、一生懸命勉強してほしい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
開催地より	<p>岩手県の陸前高田市で実際に起こったことを、体験した語り部から直接伺うことで、子どもたちが感じたことはかけがえのない財産になると思った。災害の恐ろしさや災害に備えることの重要性とともに、命の大切さも感じてくれたと思う。貴重なお話をありがとうございました。</p>